

令和元年度(平成31年度) 地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告

(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

交付金名	No	①	②	③				④		⑤		⑥		
		交付対象事業の名称		交付金額 (総事業費)	本事業における重要業績評価指標(KPI)				本事業終了後における実績値		外部有識者からの評価		実績値を踏まえた事業の今後について	
		事業費の内訳	単位:円	指標(昨年度からの増)	指標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由	
推進交付金 (50/100)	1	<p>中越文化・観光産業支援機構による歴史資源・行政視察を活用した広域観光</p> <p>【農業農村体験交流施設事業管理委託料】 ・越後妻有上郷クローブ座管理運営委託料 4,000千円</p> <p>【観光PR事業】 ・印刷製本費 585千円(津南町観光総合パンフレット作成) ・広告料 348千円(ひまわり広場ラジオ広告、雪まつり広告)</p> <p>※広域連携市町村(12市町村) 長岡市、三条市、柏崎市、小千谷市、十日町市、見附市、燕市、魚沼市、南魚沼市、弥彦村、出雲崎町、津南町</p>	2,450,000 (4,933,360)	指標①	観光入込客数 1万人増	600,000	人	R2.3	472,400	地方創生にある程度効果があった	総合戦略のKPI達成に多少有効であった	<p>・上郷クローブ座に対する地元住民の知名度・関心度が低く、利用者は町外者が多い。町外者と地元住民との接点が薄いことが課題である。</p> <p>・固定化している役員やスタッフを定期的に入れ替えるなど、地元住民の関わりを広げる必要がある。</p> <p>・各事業のコンセプトがバラバラで、場当たりの宣伝となっている。もう少し戦略的に長期的持続する効果をするべきである。</p>	本事業内容の見直し・改善を行うべき	<p>地元住民の関わりを広げるため、施設情報の周知方法、周知先の検討や更なる営業努力により、知名度・関心度の向上に努める必要がある。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、従来のやり方が通用しないため、例えばインバウンドであれば、新潟空港からのモデルコースを設定してみるなど、広域の枠組みのあり方そのものを再検討するべきである。</p>
	2	<p>苗場山麓ジオパークユニバーサルデザインツーリズム推進事業</p> <p>【ユニバーサルデザインツーリズムPR事業】 ■委託料1,293,064円【うち津南町負担額879,284円】 ・解説看板データ作成392,400円(信濃川の展望地、中条川の崩壊地形) ・ジオサイト草刈り、トレッキング道開削133,864円 ・ジオパークホームページ更新管理546,800円 ・解説看板データ修正220,000円(中野の無斑晶ガラス質安山岩の露頭、見倉橋の結束層) ■需用費750,067円【うち津南町負担額510,280円】 ・印刷製本費750,067円(ガイドブック実践編、ジオパークマップ、ジオだよりVol38~41)</p> <p>【ユニバーサルデザイン普及推進事業】 ■賃金(専門員2名、事務員1名)2,837,625円【うち津南町負担額1,929,585円】 ■報償費335,100円【うち津南町負担額227,868円】 ・民学官会議209,300円(学術指導員、ジオパーク振興協議会委員) ・各部会125,800円(資源探査部会、商品開発部会、広報部会、ガイド部会) 【整備事業】 ■天池展望台整備工事3,300,000円【うち津南町負担額2,244,000円】</p>	2,725,000 (5,791,017)	指標①	観光入込客数 1万人増	710,098	人	R2.3	505,500 ※津南町・栄村合算値	地方創生にある程度効果があった	総合戦略のKPI達成に多少有効であった	<p>・観光入込客数は目標に到達しなかった。この理由として、夏期や紅葉時期の観光客を積極的にジオパークとリンクさせる取り組みを加速する必要がある。例えば、ひまわり畑の来訪者やキャンプ客など、地域の自然に関心がある観光客を近隣のジオサイトに誘導できる取り組みや子どもたちを対象にした体験教室やミニトレッキング、観察会など企画し、HPやSNS等でこれまで以上に広報を展開する必要がある。</p> <p>・2019年度冬期の極端な少雪とコロナ禍という特殊な状況であったため、単年度での効果の評価することは困難である。発展性をもった継続的な取り組みを実施したうえで、効果の評価すべきと考える。</p>	追加等さらに発展させていく	<p>少雪については、2019年度は極端であったが少雪は例年の傾向であり、スキーを主体とした交流人口での入込客数の増加はあまり期待できない可能性がある。このため、夏期や紅葉時期の観光客を積極的にジオパークとリンクさせる取り組みを加速する必要がある。例えば、ひまわり畑の来訪者やキャンプ客など、地域の自然に関心がある観光客を近隣のジオサイトに誘導できる取り組みや子どもたちを対象にした体験教室やミニトレッキング、観察会など企画し、HPやSNS等でこれまで以上に広報を展開する必要がある。</p> <p>また、コロナ禍の後を見据えて、外国人向けのコンテンツの充実を図る必要がある。英語版、中国語版のHPやパンフレットの作成、外国人の視点でのSNS等の情報発信を拡充して、2021年度の展開を視野に準備を加速する必要がある。</p>
				指標②	苗場山麓ジオパーク認定ガイド数 2人増	72	人	R2.3	70 ※コロナ対策により検定未実施					
				指標③	障がい者の宿泊者数 10人増	364	人	R2.3	384					